

さみしい夜の句会報 第803号 (2022. 9. 18-2022. 9. 25)

- ◆ 参加者 岡村知昭、白水ま衣、しまねこくん、池田吉輝、風池陽一、
徳道かつみ、susyu、茶熊さくら、たねまる、菊池洋勝、雷(らい)、
海馬、灰色ニボシ、馬勝 さし、せば、元さん、おかもとも、雲上
晴也、花野玖、西脇祥貴、思雨(スイ)、東ころろ、まつりべきん、
秘密子、あ、ぼっぼ、蔭一郎、最中妙、しろとも、太代祐一、空瓶
Kiyoka、南野紀美、睦月ヨシ、むくみんママ、糸瓜囃子、輪井ゆう、
式定住佳、西沢葉火、HAKUBI、生・存、天やん、ゆりのはなこ、し
ろとも、抹茶金魚、柳川零十、Raito Masakawa、一休庵、まこ(砂狐)、
EliGorin、達毘牛、コネコノビッチ、石川聡、鷺沼くぬぎ、宮坂葵哲、
さんちゃん、馬勝、冬憑(ふゆつき)、幸福男、汐田大輝、踏子、チュ
ーバ2022、naJini、涼閑、雲心、Tomoko、電雷侍、Hartwo、高木
タツオ、木野清瀬、Ira、伽羅、小沢史、みんみん、水の眠り、hyutoppa、
森内詩紋、岩瀬百、星野響、Dessant、A、アラ、風花(かざはな)、月
硝子、日下昊、石原とつき、しもじよう、穂瀬りな、
Millieent、AlmondIkkatte、橘月子、たろりずむ、弓田登辞、かな
ず、鴨川ねぎ、にじむにじ、黒穂十、猫又(夏梅堂)、罵りず、なゆ
た、檜崎進弘、神傘ツバメ、想人有、おかわり、月波与生(一〇五色)

◆ 7・7詩、5・7・5詩

- 野分まで金平糖の色揃え かなず
送信は受信に肉を巻いたもの 西脇祥貴
一車両つつ仏壇の忘れ物 蔭一郎
外人の名前を付ける今年米 しまねこくん
冷奴とわたくしは世界が違うはず、でも 石原とつき
鳥賊としてやっていけるか考える 岩瀬百
こほろぎのねんぶつ りりり りりりりり
森内詩紋

エルキュール・ポワロはとても句跨り 白水ま衣

一夜干しとの絶交は機密だよ 岡村知昭

ナイフの良心は発音しないㄹ 白水ま衣

あさがおを摘むとおんなのひとが来る 蔭一郎

野葡萄に一つの漏れも無く偽名 しまねこくん

雨粒をノリツッコミとして そわか 西脇祥貴

山火事を古いスカンクから語る 岡村知昭

終着駅の沈黙聴く線路 雷

俺を量産する洋服店 おかもとも

シャーロック・ホームズの部首は耳 白水ま衣

からっぽからっぽと駆け抜けてく秋 太代祐一

逃げ切った偽アディダスの二本線 さこ

心情はほとんど yeah!! じゃないのかよ おかもとも

ホームズの横顔にして滝である 白水ま衣

消化器が足りない時に出す檸檬 しまねこくん

ありがとう、あなたは渡り廊下でした おかもとも

人よりも案山子に似たる案山子かな 風池陽一

定型におさめてホームズの孤独 白水ま衣

くちづけの砂糖問屋と塩問屋 岡村知昭

「鏡よ鏡」料金別の褒め言葉 睦月ヨシ

朝顔や小さくなつた母の背 睦月ヨシ

金閣を燃やしたくなる曼珠沙華 汐田大輝

友が撮る空、雲、秋のラベンダー ぼっぼ㉔水須ゆき子

ノック、ノック、だあれ、気の抜けたオルゴール 海馬

好物へ垂らす醬油や鱈雲 菊池洋勝

恐る恐る同じ道行く秋彼岸 花野玖

ほうせんか娘がふたり名は訊かず 木野清瀬

消灯の時刻を待つて森になる 糸瓜囃子

絆創膏 承認欲求 剥がせない しろとも

行く人を諦め手を振る花野風 風花

アイドルでハエトリグモを業界化 抹茶金魚

大き月見し二日後に祖母が死に 流天
数珠玉に触れず大人となりにけり syusyu
大丈夫どつしようもなく手を握る 茶熊さえこ
雨止んで 夜風虫の音 星ひとつ たねまる
ぜつぼうは蛆の速度で這い回り 灰色にぼし
辞世の句母音が禁止パピペポ 馬勝
頬の内穂紫蘇転がし気を偽装 さー
コーヒーに胃のもたれたる夜学かな せば
割り箸の棘ぬけ難し秋祭り 雲上晴也
みそラーメン 卵を1つ 星3つ 思雨
天国と地獄どちらが極楽か かづみ
「本当のかづみ」は金に替えました かづみ
くちびるを重ねて美しい炎 東ころ
オルガンも工事現場で泣いている まつりぺきん
持ち主の居ない幸せを拾った 空瓶
雨音と孤独な私に酔うてみる Kiyoka
なめくじに水掛おはよう言つてみる むらみんママ
きみとぼく違う虹しか見てないね 輪井ゆう
ジタバタと己が無力を証明 式定住佳
咳が出る 風邪じゃないよ 花粉だよ HAKIBIKI
くずかごに自尊心一つ九月尽 天やん
孤独死が手招きしてる一人の朝 ゆりのはなこ
衣擦れの残り香灰か夜会草 mugwort
秋分や恒河の岸に咖喱煮る あ
悪魔の夜会でワインを飲むぜとプ 達毘古
さみしさはまるみをおびた死のかたち 灰色にぼし
秋思など猫はいつでもセンチメンタル コネコノビッチ
椿の実こつつんこつつん秋叩くもつきん 石川聡
線路沿いの秋桜会社行きたくない 鷺沼くぬぎ
こおろぎや幾たび夜を越してなお せば

口は必ず残る螺子一個 宮坂菱哲
仕方ないなんて言わないでよ サラバ さんちゃん
元カノと兄弟集う辛煮会 馬勝
秋彼岸お供え用のハイライト 雲上晴也
かき氷この世界史の特異点 西沢葉火
亡き妻が居付く立秋音も恋し 冬憑(ふゆつき)……
顛顛に弾倉のあるシルバニア さこ
舶来の魔人が霧に咽せてゐる あ
罌雲みんなど同じ孤独なり 福美踏子
秋分や猫見つめてるお仏壇 鶴子
味のある人になりたい木曜日 rajini
蝕の後イスカンダルへ島流し 涼閑
かまつかや毛振り終わりし獅子の精 雲心
かわいい♫がキヤラを側面して意外 抹茶金魚
朝顔や小さくなつた母の背 睦月ヨシ
配信をただ待っているだけの夜 Tomoko
碓星 (カシオペア) 機械仕掛けの ことき天 電車侍
雨はやみ 誰が置き傘と吾々無月 haruno
空澄みてデジタル時計の彼岸入り 高木タツオ
夢に棲む母の背中や濃竜胆 伽羅
朝顔に絡むいつかの埃かな 小沢史
我が町の鉄塔つづく秋の空 みんな
腕さすり七分袖にする朝顔で 水の眠り
我ら皆オイルサーディン霧の駅 hyutoppa 突波
猫の背にも秋霖 鴨川ねぎ
曼珠沙華ダークマターに根を張つて 星野響
詩人の実存は夢に咲く造花 passant. A
曼珠沙華、歌へよりリーマルレーン アラ
倒されし命照り映ゆ曼珠沙華 月硝子
兎が駆け回る刈られた牧草地彼岸入り 日下昊
あまりにも詩であるために避けきれない 穂瀬りな

暇だから瀕死のきみについてゆく 橘月子
まだ痛むふりをしてる三学期 たろりずむ
ダ・カーポで繋いだガリバーの背骨 月波与生

◆ 7・7、5・7・5以外の短詩

あの頃のあたしのままでいるなんて何故にあなたは信じられ
れたの 鈴音

空っぽは夢をつめこむためと言いかばちや頭は今年あと厄
あ

「なんてこと 歳月は二度と戻らない」ふと気がついて泣
く昼下がり 最中妙

蝸壺の底で絡まる九度目の別れ話の吸盤でかい 生・存
妖怪になってしばらく経ちます」と手紙を出した返信不
要 しろとも

さみしいと君は言うけどこの静かで愛しい時間ため息ひと
つ 柘川零卜

外国の楽器を吹いていた人に顔があつたか思い出せない
生・存

汽車進む星屑の中窓を閉め硝子に映る夜を見ていた by
遠い野分夜半の雨戸をはたはたと鳴らし呼ばるる幼き私
鷺沼くぬぎ

離れゆく体温が冷め空白な泣き出したいよな気持ちを抱え
Millicent Almondilklatte

さみしいというよりやっぱりさみしいと言ひ直すきみ溜め
息の谷 弓田答辞

新聞やニュースにのつた犯罪者みんなきちんとマスクして
いる (蔭一郎)

◆ 詩

さみしいのこ
ひとりぼっちで
鉢の中
さみしくないよ
君がいるから (元さん)

雨降りて
痛みし頭
抱える夜
あなたがいれば
平気なのにな (柘秘密子)

揺るる地に
揺るる心に
揺るる身の
置き処なく
夜長明け方 (南野 紀美)

何処からか
おでんの香り
誘われて
熱爛一本 呑む私。(休庵)

このまま結婚できなくて、寂しい夜に泣いたとしても、俺は自分なりにやれるべきことをやった。かな子ちゃんを振ってしまっただけ、これが俺の天命。他の人に比べれば脆弱な魂だったかもしれないけど、これから大切に自分のペースで育てよう。(幸福男)

◆作品評から

くちづけの砂糖問屋と塩問屋 岡村知昭

〜これはとても良いです。僕は好きですね。(にじむにじ)

天国と地獄どちらが極楽か かづみ

〜地獄だろうね……

地獄の亡者も生まれ変われるのが極楽だから。天国は異次元だもの。なんせ異境の神が支配する死の世界(黒穂十)

「本当のかづみ」は金に替えました かづみ

〜2000億、入手されたのですね。(Zimbabwe\$だったりにして) (猫又(夏梅堂))

消化器が足りない時に出す檸檬 しまねこくん

〜消化器、なのよレモン絞ってさっぱり食べるのよ、レモンは減塩の味方だし。(鷺沼くぬぎ)

昼間見た夢の続きをください5文字で しろとも

〜〈昼間見た夢の続きを7文字で〉で定型の「音」。〈見た夢の続きをください5文字で〉で破調の「音」。定型の器を信賴すれば器は応えてくれます。(月波与生)

恐る恐る同じ道行く秋彼岸 花野玖

〜お彼岸に墓参りへ向かう。ふと、同じ道を行く人に気付いた。そんなはずはないが、同じお墓に向かっているならどうしよう。知らない親戚か。父は生前この人に感謝されていたのか。それとも愛人の隠し子か。いや、もしかしたらこの人、お墓に帰ろうとしているのかも……。 (西沢葉火)

世に降りし青い鳥から赤い羽根 風池陽一

　　＼青い鳥から赤い羽根である。何故。昔、縁日で売られていた色とりどりのヒヨコのことを思い出す。あのヒヨコは大人になれたのだろうか。青い鳥の羽根は青いままだらうか。
（月波与生）

新聞やニュースにのった犯罪者みんなきちんとマスクしている（蔭一郎）

　　＼妙に頭に残るうた。そういやCOVID以前は、マスクといえはよほどの事情であった。（森内詩紋）

ナデシコの7デシベルでする開花 石川聡

　　＼最初読んだときはナデシコ↓7デシベルのカタカナ繋がりが気になったが、今朝はナデシコ↓開花の連絡が普通すぎなのだと感じている。それもまたまた作者の企みか。
（月波与生）

朝顔や小さくなった母の背 睦月ヨシ

　　＼母の肩は丸くて固くて叩いても応えない
母の肩を叩くのが好きであの弾力が懐かしくて
晩年の痩せていた母に余り会えなかつた事が残念でたまらない（罵りす）

ほうせんか娘がふたり名は訊かず 木野清瀬

　　＼「音のすごいドラマを見させていただきました。ここでは花は『ほうせんか』でなくてはいけけないし、子どもは『娘ふたり』でなくてはいけけない。息子ふたり、娘と息子、じゃ駄目。妄想が暴走…佳句を読ませていただきありがとうございました。（小沢史）

消灯の時刻を待つて森になる 糸瓜囃子

〜森になる…夜の黒い森、恐ろしいイメージです。夜は怪物になるような感じかな…想像力が掻き立てられます、好きです。(なゆた)

ダ・カーポで繋いだガリバーの背骨 月波与生

〜すごく好きです (森内詩紋)

あさがおを摘むとおんなのひとが来る 蔭一郎

〜「あさがお」にひらがなの「おんなのひと」。

美しさだけでなく、妙な切なさとか寂しさとか…

この「おんなのひと」、私もいつか使ってみたいです。(まつりぺきん)

〜咲くとではなく摘むとがいいですね。(槽崎進弘)

向日葵がカタログにある美容室 しまねこくん

〜美容室のへアカタログに向日葵があるという楽しい句。

向日葵が効いています。(月波与生)

絆創膏 承認欲求 剥がせない しろとも

〜承認欲求というと満たせないってことはメジャーですが、剥がせないというところにぐつとききました。(糸瓜囃子)

行く人を諦め手を振る花野風 風花

〜この詩、グッと来ますね。なんか…良い。(神傘ツバメ)

〜あああ、ぎゅつとされて痛いつす…(想人有)

新しい鼻血が店に並びだす おかもとかも

↳「鼻血」である。それも新鮮なものばかり。「新しい〇〇が店に並びだす」クイズをやっても誰一人正解できないだろう。新鮮だと思っ。 (月波与生)

アイドルでハエトリグモを業界化 抹茶金魚

↳下五が素敵で大好きです (おかわり)

万能のプッチンプリンが腑に落ちない 高木タツオ

↳プッチンプリンは皿に落ちるイメージだが「落ちない」を言い切るのは言葉のチカラ。「万能」「腑」の選び方も考えられています。(月波与生)

鳥賊としてやっていけるか考える 岩瀬百

↳人類が滅亡した後には生態系の頂点に立つのは、知能を進化させたイカなのだというのは本当にある学説です。もし自分がイカに生まれ変わるとしたら、そういう未来なら良いけど、100年後ならどうだろう。骨も無く、頭も無く、個性も無く、何も考えていない感じ。挙げ句の果てにこんな風になるのかも、などと考えながらイカの姿煮をついている。美味しくなって誰かに喜んでもらえるだけ、良いとするか。(西沢葉火)